



## 2026年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年3月12日

上場会社名 株式会社 柿安本店 上場取引所 東  
 コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 正木 崇彦 TEL 0594-23-5500  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年4月期第3四半期の連結業績（2025年5月1日～2026年1月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年4月期第3四半期	27,938	0.7	1,343	△6.2	1,378	△6.0	814	△8.7
2025年4月期第3四半期	27,738	△3.1	1,432	△21.9	1,466	△21.2	892	△25.2

(注) 包括利益 2026年4月期第3四半期 934百万円 (7.5%) 2025年4月期第3四半期 869百万円 (△28.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年4月期第3四半期	85.07	—
2025年4月期第3四半期	90.39	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年4月期第3四半期	18,901	15,179	80.3
2025年4月期	19,196	15,044	78.4

(参考) 自己資本 2026年4月期第3四半期 15,179百万円 2025年4月期 15,044百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年4月期	—	0.00	—	85.00	85.00
2026年4月期	—	0.00	—		
2026年4月期（予想）				85.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年4月期の連結業績予想（2025年5月1日～2026年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,400	0.8	1,500	△0.0	1,550	0.7	850	21.2	88.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年4月期3Q	12,446,700株	2025年4月期	12,446,700株
② 期末自己株式数	2026年4月期3Q	2,863,492株	2025年4月期	2,868,617株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年4月期3Q	9,579,685株	2025年4月期3Q	9,875,956株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9

[独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間(2025年5月1日~2026年1月31日)におけるわが国経済は、景気が緩やかな回復基調にある中で雇用・所得の改善により個人消費に持ち直しの動きがみられました。

その一方、長引く物価上昇や米国の通商政策の影響など、先行き不透明な状況も続いております。

当社グループの属する食関連業界におきましても原材料価格の上昇や労働力不足の深刻化が大きな影響を及ぼしているほか、家計の節約志向は依然として根強いなど、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような環境の中、当社グループはお客様にお喜びいただける高付加価値・高品質な商品やサービスの提供に努めました。また、既存店の収益改善を進めるとともに、最大の需要期である年末年始商戦での『年末感謝袋』や『福袋』等の店舗での売上施策に加え、「柿安オンラインストア」やWEB予約サービス「ニクヨヤク」「カキヨヤク」向け限定商品をご用意するなど、ECサイト経由での売上獲得にも取り組みました。

出退店につきましては、「柿安ダイニング 伊勢丹浦和店」、「口福堂イオンモール須坂店」を出店した一方、10店の退店を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,938百万円(前年同期比0.7%増)、営業利益は1,343百万円(同6.2%減)、経常利益は1,378百万円(同6.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は814百万円(同8.7%減)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

#### (a) 精肉事業

精肉事業につきましては、11月29日には毎年恒例の「いい肉の日」企画、12月29日とその前後では「本年最後の肉の日」として大人気の『肉ざんまい感謝袋』をはじめ5種類の感謝袋をご用意するなど、「肉の日」ならではの商品展開を図りました。また1月の初売りでは、松阪牛をお値打ちに堪能できる『松阪牛ぜいたくざんまい福袋』やオンライン限定の『黒毛和牛ステーキ福袋』等、ハレの日にぴったりな福袋を複数種をご用意するなど、年末年始商戦を中心とした販売促進に取り組みました。

出退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は10,658百万円(前年同期比0.8%減)、セグメント利益は903百万円(同26.8%増)となりました。

#### (b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、年末年始のお値打ちな『年末感謝袋』『福袋』をはじめ、松阪牛を用いた『松阪牛入りメンチカツ』のほか、精肉事業のオリジナルブランド豚『鹿兒島XX』を使用した中華風メンチカツを販売し、好評を得ました。また低糖質&高たんぱく食材として話題の「豆腐カンズ」を使用した『干し豆腐&蒸し鶏のヤムウンセン風サラダ』等、体にやさしい商品の開発にも取り組みました。

出退店につきましては、「柿安ダイニング 伊勢丹浦和店」を出店、2店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は9,868百万円(前年同期比0.4%増)、セグメント利益は823百万円(同18.7%減)となりました。

#### (c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、冬の人気定番商品『いちご大福』のほか、かわいらしい見た目も楽しい『雪うさぎいちご大福』やクリスマスを彩る『サンタ・トナカイいちご大福』、干支をデザインした『干支どら焼』を販売するなど、味だけでなく見た目にもこだわった商品開発を行いました。新春の『福袋』では『口福パス』(一定期間中、何度でもご利用可能な割引券)を例年は1枚のところ、2026年はご家族や知人の方にもお値打ちにご利用いただけるよう封入数を2枚とすることで、さらなる顧客獲得を図りました。

出退店につきましては、1店の出店、2店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は4,995百万円(前年同期比4.3%増)、セグメント利益は183百万円(同1.3%減)となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、グリル業態では冬限定のこだわり商品『ビーフシチュー』や『ビーフシチューハンバーグ』のほか、『牛タンシチュー』をご用意いたしました。また、料亭業態ではランチメニューを一新し、メインとなる松阪牛や黒毛和牛リブロースのほか、たくさんの種類の副菜もお値打ちに楽しめる『18菜のすき焼膳』をご用意し、大変ご好評をいただきました。

出退店につきましては、5店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,044百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント損失は2百万円(前年同期は43百万円のセグメント利益)となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、年末年始に人気看板商品の牛肉しぐれ煮等を詰め合わせた『年末感謝袋』『福袋』を価格帯別に多数をご用意しご好評をいただきました。また、年に1度開催される松阪肉牛枝肉共進会で落札した松阪牛を用いた『松阪牛 しぐれ煮』はこの時期の恒例商品として根強い支持をいただいております。

この結果、当事業の売上高は1,371百万円(前年同期比3.2%増)、セグメント利益は143百万円(同20.1%減)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ294百万円減少し、18,901百万円となりました。

流動資産は200百万円減少し、11,329百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,202百万円、仕掛品の減少60百万円、商品及び製品の減少12百万円、及び売掛金の増加1,087百万円等であります。

固定資産は93百万円減少し、7,571百万円となりました。主な要因は、繰延税金資産の減少175百万円、建物及び構築物の減少123百万円、及び投資有価証券の増加233百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ429百万円減少し、3,722百万円となりました。

流動負債は397百万円減少し、3,231百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少178百万円、賞与引当金の減少178百万円、未払法人税等の減少174百万円、及び未払費用の増加127百万円等であります。

固定負債は31百万円減少し、490百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少27百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ135百万円増加し、15,179百万円となりました。主な要因は、剰余金の配当による減少814百万円と親会社株主に帰属する四半期純利益814百万円の計上による増加、及びその他有価証券評価差額金の増加145百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年4月期通期の連結業績予想につきましては、2025年6月10日に発表いたしました2025年4月期決算短信〔日本基準〕(連結)に記載しております予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,995	6,792
売掛金	2,502	3,590
商品及び製品	382	370
仕掛品	429	368
原材料及び貯蔵品	163	169
その他	57	38
流動資産合計	11,530	11,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,750	2,626
土地	2,119	2,119
その他（純額）	965	962
有形固定資産合計	5,835	5,709
無形固定資産	182	171
投資その他の資産		
投資有価証券	219	452
繰延税金資産	236	60
差入保証金	671	642
退職給付に係る資産	312	291
その他	207	244
投資その他の資産合計	1,647	1,691
固定資産合計	7,665	7,571
資産合計	19,196	18,901

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,278	1,100
未払金	503	364
未払法人税等	315	140
契約負債	10	17
未払費用	913	1,041
賞与引当金	346	168
役員賞与引当金	10	15
株主優待引当金	46	18
その他	204	366
流動負債合計	3,629	3,231
固定負債		
資産除去債務	424	397
その他	97	93
固定負債合計	522	490
負債合計	4,152	3,722
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,086	1,089
利益剰余金	18,438	18,439
自己株式	△5,900	△5,889
株主資本合計	14,893	14,908
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56	201
退職給付に係る調整累計額	94	68
その他の包括利益累計額合計	150	270
純資産合計	15,044	15,179
負債純資産合計	19,196	18,901

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2026年1月31日)
売上高	27,738	27,938
売上原価	12,710	13,055
売上総利益	15,028	14,883
販売費及び一般管理費	13,595	13,539
営業利益	1,432	1,343
営業外収益		
受取利息	2	11
受取配当金	5	7
その他	28	16
営業外収益合計	35	36
営業外費用		
その他	1	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	1,466	1,378
特別損失		
固定資産除売却損	37	18
資産除去債務履行差額	—	33
その他	—	6
特別損失合計	37	58
税金等調整前四半期純利益	1,429	1,320
法人税、住民税及び事業税	450	378
法人税等調整額	86	126
法人税等合計	536	505
四半期純利益	892	814
親会社株主に帰属する四半期純利益	892	814

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2026年1月31日)
四半期純利益	892	814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	145
退職給付に係る調整額	△33	△25
その他の包括利益合計	△22	119
四半期包括利益	869	934
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	869	934

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	10,748	9,825	4,787	1,045	1,328	27,735	2	27,738	—	27,738
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	10,748	9,825	4,787	1,045	1,328	27,735	2	27,738	—	27,738
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,272	8	31	5	813	2,131	—	2,131	△2,131	—
計	12,020	9,834	4,819	1,051	2,141	29,867	2	29,870	△2,131	27,738
セグメント利益 又は損失(△)	712	1,011	185	43	179	2,133	△0	2,133	△700	1,432

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△700百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△718百万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2026年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	10,658	9,868	4,995	1,044	1,371	27,938	—	27,938	—	27,938
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	10,658	9,868	4,995	1,044	1,371	27,938	—	27,938	—	27,938
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,458	18	35	6	842	2,361	—	2,361	△2,361	—
計	12,116	9,886	5,031	1,051	2,213	30,299	—	30,299	△2,361	27,938
セグメント利益 又は損失 (△)	903	823	183	△2	143	2,051	—	2,051	△707	1,343

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。  
 2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△707百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△745百万円及びその他調整額37百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2026年1月31日)
減価償却費	464百万円	458百万円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年3月12日

株式会社柿安本店  
取締役会 御中

東陽監査法人  
名古屋事務所

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 桐山 武志

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 南泉 充秀

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社柿安本店の2025年5月1日から2026年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年11月1日から2026年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年5月1日から2026年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれておりません。